

平成13年度

小学生をもつ父親・母親の養育態度・意識の実態に関する調査 《ダイジェスト》

あなたの子育て、 見なおしてみませんか？



福岡県教育委員会では、昭和55年度、平成3年度、平成8年度に続いて、平成13年度に小学生をもつ保護者を対象に「父親・母親の養育態度・意識の実態調査」を実施しました。

この度その結果をダイジェストとしてまとめましたのでこれからの子育てにどんなことが大切なのか、みなさんで考えるヒントにしてください。

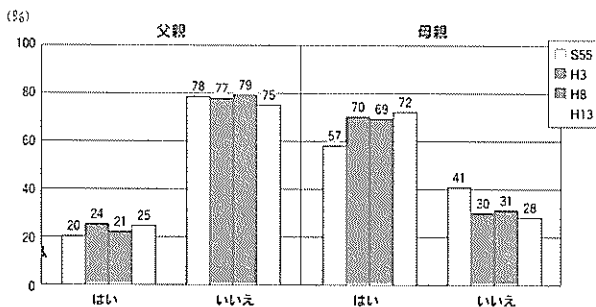
編集／発行：福岡県立社会教育総合センター
糟屋郡篠栗町大字金出3350-2
Tel092-947-3511 Fax092-947-8029

過保護・過干渉の
傾向が強まっています

基本的な生活習慣

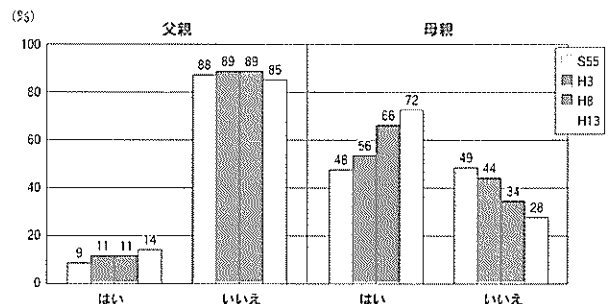
◆あなたは今朝お子さんをおこしましたか。

朝、子どもを起こす親は年々上昇し、母親だけ見ると20年間で14%上昇しています。自主的に起床する子どもは、ますます減る傾向にあるといえるでしょう。



◆今朝お子さんが学校に出かける前、持ち物について注意しましたか。

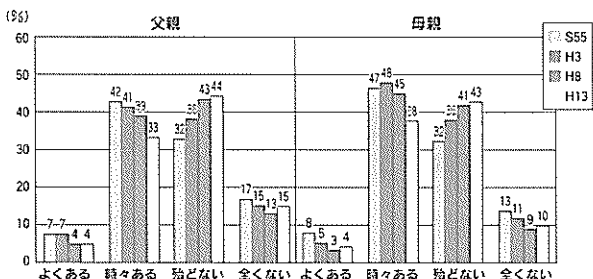
父母ともこの20年で注意する割合が増え続けています。6年生でも57%の母親が注意しており、これからも過保護・過干渉の傾向は強まりそうです。



遊びや勉強

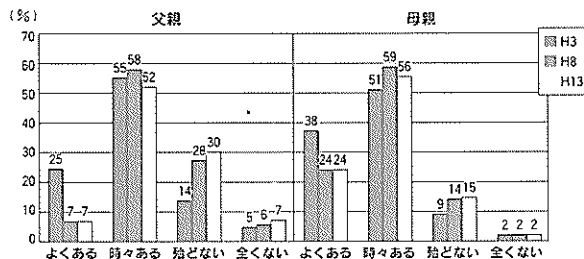
◆お子さんが見ているテレビを内容によって注意することがありますか。

様々なメディアが氾濫し、親自身、番組内容の識別意識がなくなっているせいか、父母とも年々注意する割合が減少しています。また、視聴時間のルールを決めていない父親が24%、母親が36%います。



◆お子さんの勉強を見てあげることがありますか。

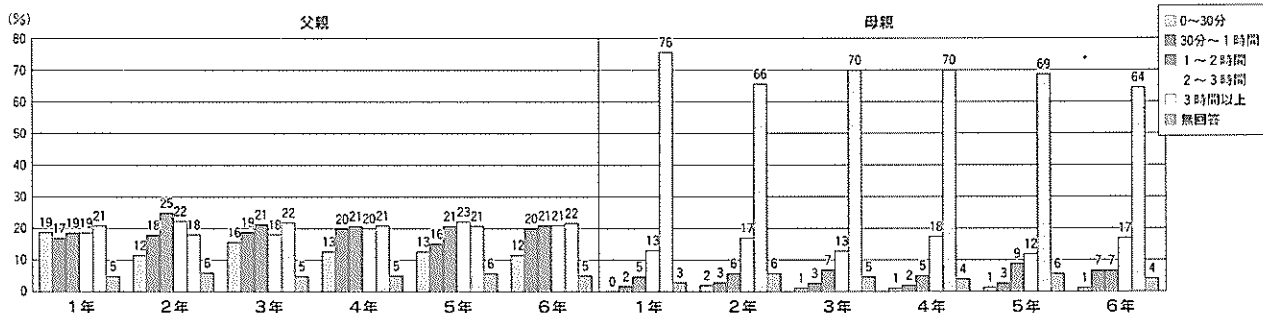
ここ10年で、子どもの勉強を見る父親が2割、母親が1割減少しています。他の調査でも指摘されている子どもの家庭学習時間の減少との関連が考えられます。



肝心なことが子ども任せになっています

◆平日お子さんと1日どれくらい一緒に過ごしていますか。

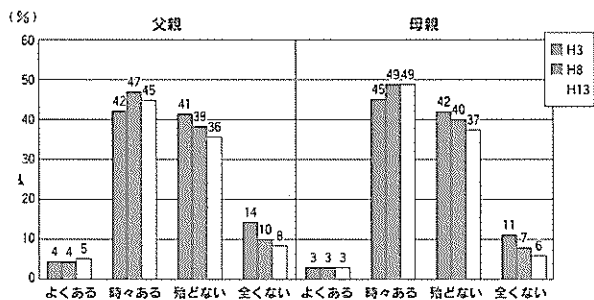
父親は子どもと過ごす時間が同じように分散しているのに対し、母親は3時間以上が69%と圧倒的に母親の方が子どもと過ごす時間が長くなっています。つまり、家庭でのしつけの中心はどうしても母親になりがちになるといえるでしょう。ただし、「遊び相手をしてあげることがあるか」という設問に対しては、「よくある」「ときどきある」と答えた父親は81.9%、母親は73.4%と父親の方がよく子どもの遊び相手をしているようです。



子どもの耐性が育っていないようです

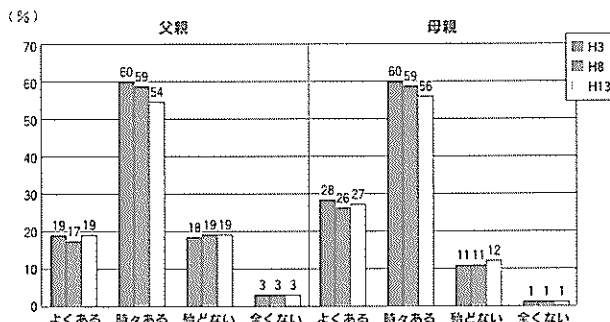
◆「みんながもっているから」と物をほしがったとき買ってあげたことがありますか。

「よくある」「ときどきある」を合わせると、父母とも50%を超えています。これを見ると、多くの父母が主体性なく他人に合わせて子どもに物を買って与えている様子が見えます。



◆お子さんの言葉づかいについて注意することがありますか。

「よくある」「ときどきある」を合わせると父親73%、母親83%と高い割合を示しています。しかし、少しずつですが年々減少の傾向にあるようです。

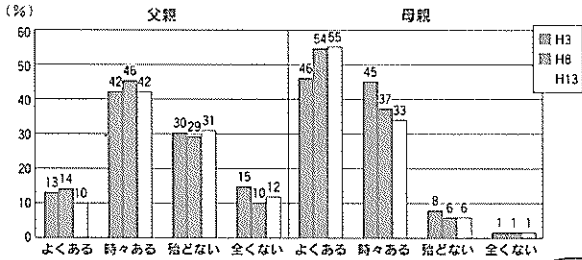


社会性や

しつけの学習と自己評価

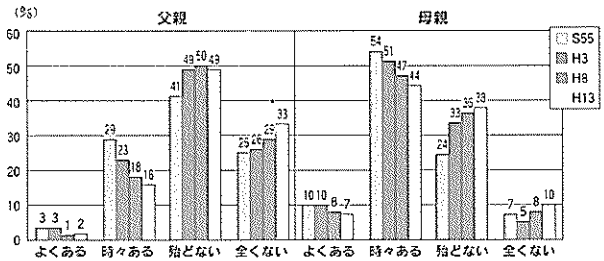
◆学校で催される会合や行事に出席することはありますか。

「よくある」と答えた母親が年々増え続けているのに対して、父親は「よくある」「時々ある」とともに減少しています。開催の時間帯にも問題があるでしょうが、できるだけ父母とも積極的に参加したいものです。



◆しつけについての本を読んだりテレビ番組を見たり、講演会に行ったりすることがありますか。

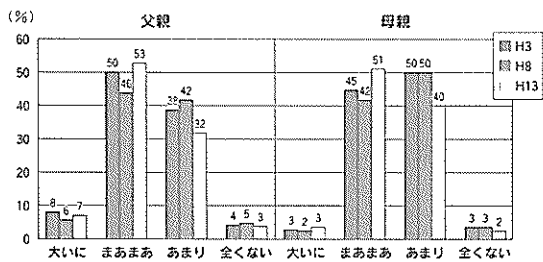
母親に比べ、父親の学習意欲の低さが顕著です。また、母親に関しても年々子育てについて学習する姿勢が低下しており、親の個人的な見識や判断に頼った子育てに傾いているようです。



子育ての学習が不足
しています

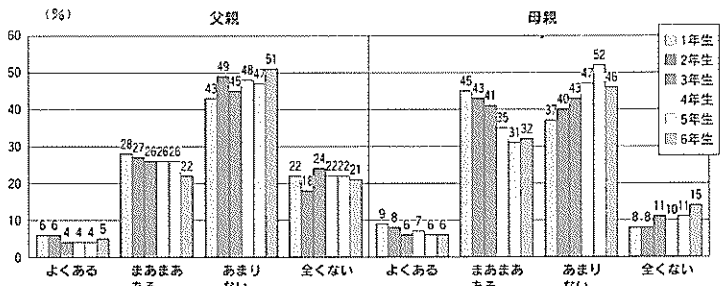
◆お子さんのしつけについて自信がありますか。

「大いにある」「まあまあある」と答えた父親は60%、母親は54%と子どもと過ごす時間が長い母親の方が子育ての自信が低いようです。学年別では低学年ほど自信が持てない傾向にあります。



◆子育てにおいてイライラして、お子さんをたたいたりしたいと思うことがどの程度ありますか。

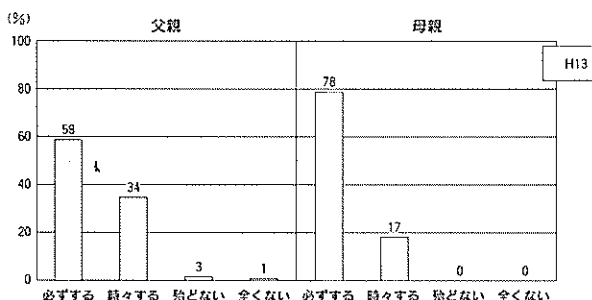
「よくある」「まあまあある」母親は45%と半数近くをしめています。その傾向は低学年ほど高く、子どもが小さいときの子育てが母親の負担になっていることがうかがえます。



金銭感覚

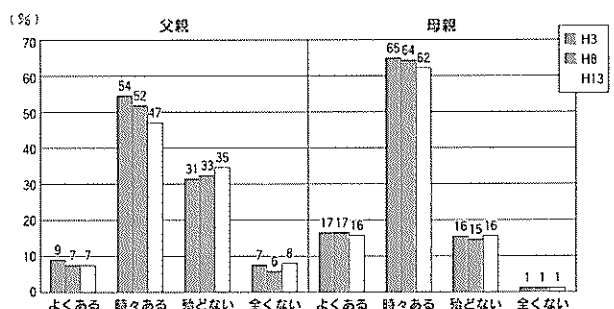
◆お子さんがルールやマナーを守っていないとき注意しますか。

「必ずする」「時々する」を合わせると父親92%、母親95%で父母ともに注意しています。社会生活をおくる上でルール・マナーは非常に大切であり、できるだけ「必ずする」ようにしたいものです。



◆お子さんと一緒に家の仕事をすることがありますか。

「よくある」「ときどきある」を合わせると父親54%、母親78%で、母親と比べて一緒に家の仕事をしない父親が多いようです。また、年々一緒に家の仕事をする父母の割合が低くなっています。



◆どんな子どもになってほしいと思っていますか。(3つ以内で選択)

- 第1位「思いやりのある子」
- 第2位「健康で丈夫な子」
- 第3位「友達と仲良くできる子」

人間関係が希薄になりつつある現代社会の中、子どもに期待する親の意識としては、対人関係を重視する傾向があるようです。最下位は「勉強のできる子」となっていますが、塾に通う子どもが年々増加していることを考えると理想と実態とのズレを感じます。

◆お子さんのしつけについて、今特にどんなことに心を配っていますか。(3つ以内で選択)

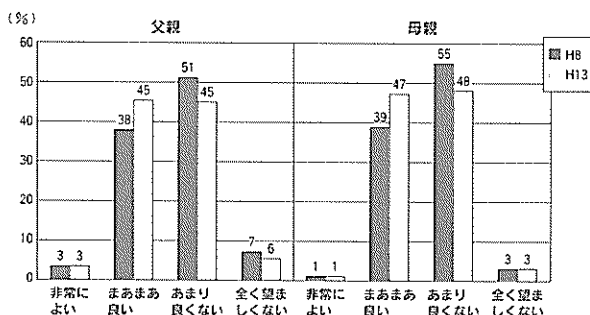
- 第1位「挨拶や言葉づかい等の基本的生活習慣」
- 第2位「友達との関係」
- 第3位「自己抑制(忍耐力)」

「基本的生活習慣」は本来ならば幼児期に確立されておくべきことですが、時代とともに先送りにされ、児童期でもしつけの中心ととらえられているようです。「自己抑制」は、近年の学級崩壊や少年犯罪が社会問題となる中で「キレイやすい子ども」がクローズアップされている影響が強いようです。

意識と実態のズレが見られます

◆あなたはお子さんにとってよい大人のモデルだと思いますか。

「非常に」「まあまあ」を合わせると約半数がよい大人のモデルと考えおり、前回と比べると肯定的なモデル像が増加しています。しつけの学習をする親が減る中、ひとりよがりになっていないか気になるところです。



◆子育てが楽しいと思うことがどれくらいありますか。

「よくある」「まあまあある」という父親は82%、母親は88%で、多くの親が子育ての楽しさを実感しているようです。しかし、楽しいと思わない父親が15%、母親が11%いるのが気になります。学年別では低学年ほど楽しさを感じているようです。これは、高学年になるほど親離れが進むためと思われるのですが、こうした自立への成長過程も子育ての楽しみの中にとらえてほしいものです。

また「よい大人のモデル」と考えている人ほど子育てが楽しいと感じている人が多いのも特徴です。過剰な自信はよくありませんが、前向きな捉え方をすることで子育てを楽しむ姿勢は必要かもしれません。

これからの子育てで考えたいこと

基本的生活習慣の徹底を・・・「あいさつ」等の基本的しつけは自己表現力やコミュニケーション能力と深く関係していると言われています。まずは形から入ってみるのも大切なことです。節度ある厳しいしつけは子育ての自信へ、そして楽しさへとつながっていきます。

注意よりもじっくりと子どもとの関係づくりを・・・忙しい現代社会の中、ともすると親は短絡的に口先だけで注意することがあります。それよりも、もっと「じっくり子どもの話を聞いたり」「子どもと一緒に家の仕事をしたり」することの方が深く子どもの心に残り、子どもなりの反省を持ったり、次へのステップへと進めるものです。

子育てのイライラ解消は子育てを楽しむ心から・・・自信過剰はよくありませんが、自分は子どもにとってよい親だと思う自己肯定観が子育ての楽しさへとつながっていくものです。忙しい厳しい中でこそ、前向きに考え、活動できる親の意識や態度が大切ではないでしょうか。

子離れをして子どもの主体性を育成・・・つい親は子どもの先回りをして世話してしまいがちです。親はもっと子どもの自立の必要性、発達上の大切さに気付く必要があるようです。本当に必要なときに援助していく、そんな自立的な人間関係を作っていくことが、たくましい子どもへと育てていくのです。

しつけの学習は社会参加から・・・人間関係が希薄になってきている今、子どもたちは異世代間交流など多様な人たちと関わっていくことが求められています。同じように、親も、学校や地域と関わりながら世代や立場を越えた学び合いをすることが健全な子育てに必要なことなのです。